





に



拾玉集七

みさかろはまわれ年も老ぬ

をいよのまをねとらるまて

千載秋上

時しあれ秋もほとよそとられ

をいよのま成よりうか

狭小雑中

をのつゝととくさるる心乃

をいよのまの酒をさるる

拾玉集上

秋をあらわらるる心乃

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻下

十より秋をあらわらるる心乃

をいよのまの酒をさるる

三生二不中

ゆきやをそとをのり有も梅花

をいよのまの酒をさるる

拾玉集四

まはれ山秋乃野をあらわらるる心乃

をいよのまの酒をさるる

玉葉冬

あつとまはれ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

千載秋上

くはらるる心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

山家集上

あつとまはれ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新古冬

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

拾玉集七

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

同四

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

山家集上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

狭小雑中

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

新撰古妻上

ゆきあめ心乃にゆきあめ

をいよのまの酒をさるる

尚侍 藤原 兼家

藤原 兼家

藤原 兼家

藤原 兼家



新撰冬 栢ま踏る夕の秋をり移乃 にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 山家集下 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾遺集上 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 玉葉冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 風雅雜上 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 玉葉冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾玉集下 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 風雅冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾遺集上 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 風雅雜中 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 千載古賀 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 千載秋下 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾玉集六 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 新撰拾冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 同春下 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾玉集四 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 山家集上 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾玉集四 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約

拾玉集二 栢ま踏る夕の秋をり移乃 にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 及撰冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 風雅春中 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 新撰拾冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 及撰拾冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾玉集四 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 新撰雜中 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 同中 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 同上 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾玉集四 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 同四 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 新撰拾冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 風雅冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 新撰秋上 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 月清集下 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 千載冬 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 月清集下 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約
 拾玉集七 山風のみねのききりもりしに にはまのきき風の方々 栢ま踏る相約

中東師重師
 茶中納言家定
 武大納言房世
 陽高親善辨
 永陽門院光長
 権大納言房世
 宗徳院正判事

同五

秋の風は秋の月をまて

をのふきかひりふ葉ゆき

風雅雜上

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

只時法師

月清集上

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

新拾遺

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

拾玉集一

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

同七

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

新後撰

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

拾玉集五

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

壬生二系中

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

拾玉集四

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

同七

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

同

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

後撰

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

新勅撰

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

月清集上

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

壬生二系中

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

山家集下

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

拾玉集二

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

永福院

新後秋上

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

拾玉集二

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

後千集下

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

月清集上

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

拾遺

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

玉葉集六

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

玉葉集一

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

全葉集

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

新後撰

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

風雅雜中

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

同冬

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

後撰

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

拾遺

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

新拾遺

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

新古津紙

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

拾玉集四

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

後撰

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

拾遺

あつたすも夕暮の暮やま

をのふきかひりふ葉ゆき

平定時

玉葉冬 今上御寄
 風雅冬 今上御寄
 拾玉集六 今上御寄
 新勅神祇 今上御寄
 新撰古冬 今上御寄
 拾玉集五 今上御寄
 隆後撰冬 今上御寄
 隆後撰雜中 今上御寄
 拾遺貞外 今上御寄
 隆後撰冬 今上御寄
 古今秋上 今上御寄
 風雅秋上 今上御寄
 拾玉集六 今上御寄
 新撰冬 今上御寄
 拾遺貞外 今上御寄
 新撰冬 今上御寄
 拾玉集三 今上御寄

新撰冬 今上御寄
 月清集上 今上御寄
 新撰冬三 今上御寄
 同撰上 今上御寄
 新撰冬 今上御寄
 壬生二上 今上御寄
 同中 今上御寄
 新撰冬下 今上御寄
 出兼書上 今上御寄
 拾遺貞外 今上御寄
 千載秋下 今上御寄
 壬生二上 今上御寄
 子載書上 今上御寄
 新撰冬 今上御寄
 拾玉集三 今上御寄
 隆後撰冬 今上御寄
 隆後撰雜中 今上御寄

隆後撰雜中 今上御寄

風雅尺教 名よそは海のほとり 二言を にはくしとてよふは 恋 在るる明物上
 後古秋下 夕たれの風あふまゝ 夕花 にはくしとてよふは 恋 西河原は可
 壬生三上 つゝとてよふは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 千載書上 けよとてよふは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 新撰拾遺上 梅のぬれひも 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 後撰拾遺中 山まよとてよふは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 拾玉集五 わやめおれよとてよふは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 後撰拾遺下 夕たれの風あふまゝ 夕花 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 同秋下 妹の袖まよとてよふは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 新撰拾遺上 けよとてよふは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 月清集下 わよめおれよとてよふは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 同下 夕たれの風あふまゝ 夕花 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 拾玉集六 あつとてよふは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 新撰拾遺下 夕たれの風あふまゝ 夕花 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 金葉書 若くは 恋 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 後撰拾遺上 夕たれの風あふまゝ 夕花 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 後撰拾遺中 夕たれの風あふまゝ 夕花 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ
 新撰拾遺上 夕たれの風あふまゝ 夕花 にはくしとてよふは 恋 恋のよきこ

拾遺書上 秋のよきこ 白菊風 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 後於春上 梅の花こ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 拾玉集三 花のよきこ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 於遺書上 梅の花こ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 新撰拾遺上 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 玉葉書下 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 月清集上 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 壬生三上 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 新撰拾遺下 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 壬生三上 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 後撰拾遺中 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 於遺書上 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 拾玉集五 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ
 長秋詠集 夕たれの風あふまゝ 夕花 白ひとてよふは 恋 恋のよきこ

頼朝

五

六条入る 太政大臣
 恋空上人
 深院白鳥
 二条法親王
 後撰拾遺中

新撰百意	了の心	梅の枝	紅梅	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	股門院本備
拾遺草上	とひ	梅の枝	紅梅	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	非生成定
於玉集五	梅の花	おれ	おれぬ	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	ふせの法
紅撰春上	梅の花	おれ	おれぬ	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	香
新撰草下	あやめ	葉	花	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	茶
壬生三不	うら	花	葉	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	茶
後古春上	うら	花	葉	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	茶
於遺頁外上	蝶	乃	か	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	茶
同上	む	あ	な	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	茶
後古賀	百	あ	な	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	茶
後拾秋上	心	あ	な	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	茶
新撰草上	吉	野	山	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	道余法師
玉葉秋下	竹	あ	か	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	人丸
壬生三不	あ	な	な	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	室政可法
新千雜上	九	さ	た	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	室政可法
於遺草上	み	か	乃	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	中務卿
玉葉草上	梅	う	け	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	中務卿
壬生三不	善	長	秋	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	中務卿

金葉草下	と	と	と	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	教忠朝臣
後撰草下	風	あ	り	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	後醍醐院
長秋詠上	う	さ	か	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	後醍醐院
新撰草賀	ま	こ	れ	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	後醍醐院
於遺頁外	よ	こ	ろ	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	後醍醐院
新拾友	和	さ	な	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	後醍醐院
於遺草下	又	人	乃	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	後醍醐院
拾玉集上	柱	を	折	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	土師院
拾玉集七	竹	を	折	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	土師院
後撰拾春下	た	れ	ぬ	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道
壬生三不	九	さ	た	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道
古今和名	さ	う	り	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道
於遺和名	あ	さ	の	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道
拾玉集七	郭	公	ぬ	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道
山家集下	ま	よ	う	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道
壬生三不中	久	方	乃	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道
於玉集八	尺	を	さ	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道
古雅上	毛	乃	は	にほひのちのちのち	にほひのちのちのち	三条入道

古雅上

以送意三

あつらひたふさぎをよす不 つゆさ

月清集十

あつらひたふさぎをよす不 入秋深山思惟佛道

新十卷安

いふくへん 前大納言俊光

於送物名

あつらひたふさぎをよす不 十げん

金葉賀

あつらひたふさぎをよす不 若菜下

玉葉友

あつらひたふさぎをよす不 原邦長

後於於三

あつらひたふさぎをよす不

拾玉集七

あつらひたふさぎをよす不

同二

あつらひたふさぎをよす不

同七

あつらひたふさぎをよす不

同六

あつらひたふさぎをよす不

風雅雜

あつらひたふさぎをよす不

新於秋上

あつらひたふさぎをよす不

夜東葉

あつらひたふさぎをよす不

拾遺草

あつらひたふさぎをよす不

新於尺教

あつらひたふさぎをよす不

新於古名

あつらひたふさぎをよす不

風雅雜

あつらひたふさぎをよす不

於送雜名

あつらひたふさぎをよす不

新於尺教

あつらひたふさぎをよす不

山家集下

あつらひたふさぎをよす不

後於於教

あつらひたふさぎをよす不

山家集上

あつらひたふさぎをよす不

於玉集六

あつらひたふさぎをよす不

新千雅中

あつらひたふさぎをよす不

新葉於祇

あつらひたふさぎをよす不

風雅雜

あつらひたふさぎをよす不

於玉集四

あつらひたふさぎをよす不

於送意上

あつらひたふさぎをよす不

極於送雅一

あつらひたふさぎをよす不

拾玉集六

あつらひたふさぎをよす不

長秋詠下

あつらひたふさぎをよす不

石秋下

あつらひたふさぎをよす不

原具氏

あつらひたふさぎをよす不

新集上 みる心のこころ... 情たのなみの心真に死を...
同 新勅尺教 山のたれ入日まをたれとよそ
新勅尺教 されまをし合月を志さつれ
新勅尺教 けせよりまのまよひしをれ
拾玉集四 夕つくよま平やまのまをさて
同六 新勅尺教 雑波津よ今まをさるまひ
金系雅下 あまの伝とくまのまをさるま
后於遺雅一 月朝のまをさるまを地を
拾玉集上 七そら山のまをさるまを
玉葉尺教 今まをさるまをさるまを
新勅尺教 ままのまをさるまをさるま
新古尺教 ありしまをさるまをさるま
新勅尺教 今まをさるまをさるまを
後撰尺教 何ゆの世のまをさるまを
新勅尺教 白あま月のまをさるまを

新集上 みる心のこころ... 情たのなみの心真に死を...
同 新勅尺教 山のたれ入日まをたれとよそ
新勅尺教 されまをし合月を志さつれ
新勅尺教 けせよりまのまよひしをれ
拾玉集四 夕つくよま平やまのまをさて
同六 新勅尺教 雑波津よ今まをさるまひ
金系雅下 あまの伝とくまのまをさるま
后於遺雅一 月朝のまをさるまを地を
拾玉集上 七そら山のまをさるまを
玉葉尺教 今まをさるまをさるまを
新勅尺教 ままのまをさるまをさるま
新古尺教 ありしまをさるまをさるま
新勅尺教 今まをさるまをさるまを
後撰尺教 何ゆの世のまをさるまを
新勅尺教 白あま月のまをさるまを

新勅尺教 雑波津よ人の初しよ... 心をさるまをさるまを
玉葉尺教 をさるまをさるまを
新勅尺教 のりまをさるまを
新古尺教 月まをさるまを
後撰尺教 心をさるまを
后撰尺教 心をさるまを
新古尺教 心をさるまを
後撰尺教 心をさるまを
山系集下 心をさるまを
玉葉尺教 心をさるまを
風雅尺教 心をさるまを
新古尺教 心をさるまを
古尺尺教 心をさるまを
於遺雅上 心をさるまを
新千冬 心をさるまを

新勅尺教 雑波津よ人の初しよ... 心をさるまをさるまを
玉葉尺教 をさるまをさるまを
新勅尺教 のりまをさるまを
新古尺教 月まをさるまを
後撰尺教 心をさるまを
后撰尺教 心をさるまを
新古尺教 心をさるまを
後撰尺教 心をさるまを
山系集下 心をさるまを
玉葉尺教 心をさるまを
風雅尺教 心をさるまを
新古尺教 心をさるまを
古尺尺教 心をさるまを
於遺雅上 心をさるまを
新千冬 心をさるまを

新集上 みる心のこころ... 情たのなみの心真に死を...
同 新勅尺教 山のたれ入日まをたれとよそ
新勅尺教 されまをし合月を志さつれ
新勅尺教 けせよりまのまよひしをれ
拾玉集四 夕つくよま平やまのまをさて
同六 新勅尺教 雑波津よ今まをさるまひ
金系雅下 あまの伝とくまのまをさるま
后於遺雅一 月朝のまをさるまを地を
拾玉集上 七そら山のまをさるまを
玉葉尺教 今まをさるまをさるまを
新勅尺教 ままのまをさるまをさるま
新古尺教 ありしまをさるまをさるま
新勅尺教 今まをさるまをさるまを
後撰尺教 何ゆの世のまをさるまを
新勅尺教 白あま月のまをさるまを

五拾遺冬	あつる事よき... ...	にきき... ...	拾遺通解
五拾遺春	花はけけ... ...	にきき... ...	傳承元補
五拾遺秋下	時をゆく雲... ...	にきき... ...	前集後推考
五拾遺秋上	白雁のふり... ...	にきき...
拾玉集一	...	にきき...
拾玉集列	...	にきき... ...	延喜集
拾玉集七	...	にきき...
古今秋下	...	にきき...
五撰秋下	...	にきき...
新撰秋下	...	にきき...
山家集下	...	にきき...
同下	...	にきき...
新撰三	...	にきき...
新撰雅上	...	にきき...
五撰秋下	...	にきき...

五撰秋下
...

